

岡山市区づくり推進事業報告書
(地域活動部門)

平成 31年 4月 日

岡山市長 大森 雅夫 様

フリガナ トミヤマダコッパレンゴクチキウタイカイ
団体名 富山学区連合町内会

所在地

連絡先

フリガナ
代表者役職・氏名

実施分野	(該当の分野を○で囲んでください) ㊦ 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名	地域の防災力の向上
事業実施区域 (小学校区)	富山小学校区
① 事業実施内容	1、単位町内会・自主防災会単位での防災講習会を実施し、地域の状況にあった防災力の向上、防災意識の向上を図った。今期13町内会で実施し187名が受講した。残念ながら2町内会が未実施となった。 講習内容は、「地域コミュニティの防災意識を高めよう、今すぐ見直そう町内会とわが家の防災対策」と題し、中山防災士の講習を中心とし、各班に分かれてのグループワークを行なった。 連合町内会からは防災グッズ緊急避難用具の実物提示と備付けの重要性を訴えた。さらにアンケートを実施した。 2、学区防災訓練を2月17日(日)富山小学校校庭にて実施。防火防災会・学区連合町内会・社会福祉協議会・婦人会・公民館・愛育委員会・消防団等々諸団体の参画参加により町民に幅広く防災意識、防災力の向上の重要性を訴えることに大きく寄与した。 3、「とみやまジュニア防災講座」を12月8日(土)9:00~13:00に実施した。 富山中学校生徒46名、若松園8名、海吉中村・本村町内会52名、大学生ボランティア(就実)15名、スタッフ44名、計165名の参加者で行った。スタッフは、公民館、連合町内会、婦人会、中村・本村町内会、富山中学校、就実学園等々多くの団体・個人の協力を得た。初めての試みではあったが、実施できたことは、大変良かったと評価できる。 訓練内容は、富山中学校から就実学園森の学校までの約1.8kmを集団で歩行にて避難し、避難場所では、カレー作り、新聞紙による食器づくり、竹炭づくり、テント張り等々の訓練を体験した。 4、電子町内会に「地区の防災」コーナーを新設し、学区民へのPR強化を図った。

② 解決を目指した課題	1、富山学区の地理的特徴としては、操山周辺と埋め立て地である平坦地とに大きく分かれており、各町内での防災への対応は、その地理的条件に合った対策を立てることが必要である。そのため各単位町内会毎での防災講習会を実施し、地域に合った防災対策をたて、防災力の向上とともに、防災意識の向上を図ることを目指した。 2、単位町内会での講習会時に各家庭での防災グッズ・非常用持出品の備えの重要性を訴えるとともに、家具転倒・火災等による被害発生を防止することを目指した。 3、高齢者、障がい者への安全安心体制を作る。
③ 目的・目標の達成状況	1、単位町内会での防災講習会の実施について 今期、13単位町内会で実施した 前年度に続き2回目の防災講習を実施した町内会を含め、ほぼ全町内会で実施することが出来たが、2町内会で未実施となり100%達成とはならなかった。（達成率90%）31年度での実施を強く推奨したい。防災講習会を実施した町内では、今までよりも真剣に防災について考え、対応策を検討する等防災意識、防災力の向上が図られた。 2、今まで富山学区では、所により水害を受けたり一部土砂崩れの被害はあったが、さして大きな被害が無かったことから、防災に対する意識は必ずしも高くはなかった。しかしながら7月の大雨により水害、土砂崩れ等の危険性を身近に感じ、防災に対する意識の向上、対応力の強化の必要性を感じた人も多くなったと思われる。 3、ジュニア防災講座の開催により避難体験・避難時の対応の仕方等が体験でき、参加者全員貴重な経験ができた。実際に災害に遭遇した時に役立つものと思う。 また、公民館、就実学園、婦人会、連合町内会、単位町内会、中学校等の協力でスムーズに訓練が実施できたことは、評価できることと思う。この体験を通して町民がお互いに協力して事に対処することの大切さを実感したことと思う。 特に中学生と町内会の町民とが一緒に防災訓練に参加したことは、それぞれの世代の対応力の差異を理解しあい、お互いに助け合うことが大切であることを学ぶ上で貴重な体験であった。 4、学区全体での防災訓練の実施により、学区としての防災意識、防災力の向上が図られているが、毎年同様の内容での訓練を繰り返すことにより、少しずつではあっても長い目で見て着実に効果が得られるように取り組みたい。 5、高齢者、障がい者への取り組みは不十分であり、次年度においてしっかりと取り組むべき課題である。

④ 企画等の工夫と情報公開	1、全単位町内会での防災講習の実施を目指し、学区連合町内会長会議での実施状況の確認と未実施の町内に対して実施の要請を行なった他、小規模町内会には、他町内会との合同開催を検討するように勧奨した。 2、防災講習を行うに際し、講師による講習を行うだけでなく、分科会形式で、各自の置かれた地域の状況確認、それに対する対応策、近隣住民との共助等について話し合いを行い、防災に対する共通認識を持てるよう努めた。 3、単位町内会での防災講習を行うに際し、連合町内会から出向き、防災グッズの展示と非常持出品の備付け、家具の転倒防止、火災報知器の設置の重要性を訴えた。 4、机上講習のみではなく実技訓練を通していざという時の対応力を強化することを目指し、その一環としてジュニア防災講座で避難訓練の実施、避難所での食料づくり等の実体験を行った。次年度以降単位町内会での講習会においても実技型の講習を行なう等の対策を取りたい。 5、災害時にブロック塀の倒壊により犠牲者がでた事例を受け、各町内会でのブロック塀の危険箇所の調査点検を行った。 6、防災に関しての住民への情報公開については、町内会長を通しての情報伝達の他、公民館だより、電子町内会での広報等を行っていたが、今年度これらに加え、電子町内会に「防災コーナー」を新設し、広く防災への取り組みをPRすることとした。 7、アンケートの実施により実態の把握と今後の取り組みへの参考にした。 単位町内会での講習時に加え、全町民を対象に次年度に跨るが4月に実施する。
⑤ 次年度計画	・引き続き「地域の防災力の向上」を課題として取り組む。 ・今年度は、単位町内会での防災講習会の開催を中心に取り組んだが、次年度はこれに加え、より密度の濃い取り組みをするべく、「富山犠牲者ゼロプロジェクト」と題した取り組みを行うこととした。 ・この課題の取り組みにあたり6組のプロジェクト部会を立ち上げ、各部会での検討結果を基に学区全体での取り組みを進めることとした。 部会は、「要配慮者部会（6名）」（要配慮者支援体制の検討）、「施設部会（4名）」（避難施設、資機材備蓄の検討）、「体制部会（7名）」（組織・体制のあり方検討）、「情報部会（7名）」（情報収集・伝達の仕組み検討）、「研修部会（6名）」（防災活動の担い手育成の仕組み、研修会の検討）、「啓蒙部会（5名）」（学区民への啓蒙活動の検討）の6部会体制とした。

⑥事業実施者の評価・感想、審査会での助言及び意見を踏まえた改善

- ・「地域の防災力の向上」の中心課題として取り組んだ単位町内会での防災講習については、前年度と合わせ 21 町内会中 19 町内会が実施し、ほぼ所期の効果が得られたものと思う。未実施の 2 町内会については、次年度には必ず実施するように指導したい。
- ・学区全体での講習会に比し、単位町内会単位での防災講習に取り組むことは、地域の特性に合った防災対策を考えるとともに、より身近に防災というものを意識することとなり、確実に町民個々のそして町内全体の防災意識・防災力の向上に繋がったものと思う。次年度も引き続き内容をさらに実技型のものを加味したものとして実施していきたい。
- ・防災講習会ごとのアンケートの実施により町内の現状を把握しているが、次年度の 4 月に実施する学区全体でのアンケートと合わせ、現状の把握と要改善点の検討を行いたい。
- ・学区主体の防災訓練を実施したが、これにより学区全体の防災意識の向上・防災力の向上に寄与したものと思う。次年度以降も引き続き実施したい。
- ・「とみやまジュニア防災講座」は、富山中学校・若松園・2 町内会・就実学園・婦人会・連合町内会・公民館等々の連携により実施したことにより、相互の連帯、共助の重要性が認識されるとともに、防災へ関心が高まった。
- ・高齢者・障がい者への取り組みは、一部の町内会を除き、全般的に不十分であった。次年度の取り組み課題としたい。
- ・キッズ防災教室、幼中小生に対する取り組みは、充分ではなかった。次年度の課題としたい。

○区づくり推進

事業審査会からの助言・意見の内容

- ・地域の防災力の向上に向けてキッズ防災教室・防災グッズの斡旋・防災標語の募集など啓発的な取り組みは高く評価できます。
- ・今までの取り組みをきちんと検証できたからこそ、次の企画につながっていると思います。
- ・防災活動は絶えず未完成であり、継続的な見直しが必要だと思えます。
- ・高齢者・障がい者に対する対応策を引き続き検討してもらいたいと思えます。

右記のⅠ～Ⅴの該当部分に○を付けてください。なお、Ⅳを選ばれたときは、その理由を下記（ ）内へ記入して下さい。

(理由：)

助言等の内容について、改善ができましたか。

- Ⅰ できた
- ② おおむねできた
- Ⅲ 一部できなかった
- Ⅳ まったくできなかった
- Ⅴ 改善意見がなかった

⑧事業実施経過

※時系列に沿ってご記入ください。事業実施のための準備や打ち合わせ会合日などもご記入ください。補助事業実施決定前の準備活動についてもございましたらご記入ください。

年 月 日	内 容
H30年 6月9日	連合町内会役員会 下期区づくり事業の内容検討
6月12日	ジュニア防災講座第1回実行委員会
7月1日	第1回町内会長会議 区づくり事業の方向につき説明
8月9日	ジュニア防災講座第2回実行委員会
8月11日	学区役員会 区づくり事業について打ち合わせ
9月6日	学区役員会 区づくり事業について打ち合わせ
10月21日	円山宮西町内会防災講習会 15名参加
10月	電子町内会に「学区の防災」コーナーを開設 町民への広報
10月21日	学区役員会 講習会の取り組み状況を確認
11月25日	円山嶽・表・南町内会防災講習会 33名参加
11月27日	ジュニア防災講座第3回実行委員会
12月2日	第2回連合町内会町内会長会議 防災講習会の実施計画確認、 防火防災会 学区防災訓練の説明
12月8日	ジュニア防災講座実施 参加人数165名
12月15日	海吉中村町内会防災講習会 21名参加
12月16日	31年度区づくり事業について打ち合わせ 22名
12月22日	学区役員会
12月25日	31年度区づくり事業について打ち合わせ ■■■東京学区5名
H31年 1月10日	ジュニア防災講座反省会
1月13日	海吉出村町内会防災講習会 37名参加
2月3日	連合町内会町内会長会議 防災講習会の実施状況確認 学区防災訓練打ち合わせ
2月10日	操陽南山・操陽ヒルズ町内会防災講習会 43名参加
2月17日	学区防災訓練 富山小学校
2月17日	円山外新田町内会防災講習会 8名参加
3月10日	福吉川東町内会防災講習会 23名参加
3月23日	円山浜倉町内会防災講習会 役員のみ 4月総会時に再度実施
3～4月	全町内会対象にアンケート実施

⑩ 収 支 決 算 書

◆ 収 入

単位:円

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
岡山市補助金	40,700	17,500	
負担金	40,700	17,525	
参加費			
寄付、他収入			
計	81,400	35,025	

◆ 支 出

単位:円

項 目	予 算 額	決 算 額	内容(必ず記載してください)
①消耗品費	14,600	4,662	コピー用紙、封筒
②食糧費	54,800	15,533	お茶、コーヒー、砂糖
③印刷製本費	12,000	14,830	プリント代、コピー代、 印刷代
④燃料費			
⑤光熱水費			
⑥通信運搬費			
⑦広告料			
⑧手数料			
⑨使用料・賃借料			
⑩原材料費			
⑪委託料			
⑫工事請負費			
⑬報償費			
⑭保険料			
⑮旅費			
計	81,400	35,025	